下刈り作業を安全に行うために（その２）

下刈り作業真っ最中のこの季節、体の調子も気になるところですが、機械の調子はどうですか？

刈払機に限らず、各種の機械を使用する場合、点検、整備を十分行うことは、労働安全衛生を確保する上で不可欠であり、機械の故障を防ぎ、長持ちさせるためにも大切なことです。機械に愛着を持ち、優しく取り扱いましょう！

なお、点検、整備の方法は機種により異なるので、付属の説明書をよく読んでから行ってください。ここでは、使用者がごく簡単に行えるメンテナンスのみ掲載します。

また、故障原因がわからない場合は、むやみに分解をしないで、販売店等を通じて専門家に依頼することをおすすめします

１　毎日の点検項目

（１）エンジン外部の清掃

①　エンジン外部の草やゴミを取り除く。その後、部品の損傷やネジのゆるみを確認する。

②　付着した油は、操作する上で危険なため拭き取る。

②　エンジンの冷却フィン部分に詰まったゴミは竹べらなどで取り除く。

（２）エアクリーナーの清掃

①　エアクリーナーの掃除は、チョークレバーを「閉」にし、キャブレターの中にゴミが入らないようにして、エアクリーナーを外す。

②　エアクリーナーは、軽くたたいてゴミやほこりを取り除く。

※エアクリーナーは、機種によってタイプが異なるため、取扱説明書に従い、掃除をすること。

（３）燃料タンクの空気穴等

①　燃料タンクの空気穴（ふたに付いている場合が多い）周辺を掃除するとともに、空気穴が詰まっていないかどうか確認する。

②　燃料タンクから燃料漏れがないかどうか確認する。

（４）歯車室周辺の汚れ

刈刃を取り外し、絡みついている草などを取り除く。

（５）刈刃の損傷、変形の有無等

① 刈刃の割れ、欠け、変形がないかを目視や打音で調べる。

② 刈刃を取り付ける際は取り付けナットをしっかり締め付け、緩まないようにする。なお、取り付けナットは通常、逆ネジになっているので注意する。

（６）ネジのゆるみ、脱落及び損傷、変形の有無

① ネジ類のゆるみ、脱落がないか調べる。

② 外から見える部分に損傷、変形がないか調べ、不良な部分は交換する。

（７）吊り金具と吊りバンドの損傷の有無

吊り金具やバンド類に損傷がないか調べる。

（８）安全装置の作動状況

緊急離脱装置の作動状況及び飛散防護カバーの取り付け状況を確認する。

吊り金具及びバンド類

飛散防止カバー

２　毎週の点検項目

（１）燃料フィルターの汚れ

針金などで燃料注入口から燃料フィルターを取り出し、点検する。汚れがひどくなっている場合は交換する。

（２）燃料タンク内の汚れ

燃料タンク内のゴミなどをきれいに掃除する。水が入っている場合は、タンク内の燃料を排出し、タンクを使用燃料で洗う。

（３）動力伝達軸及び歯車室の潤滑

① 動力伝達軸をカバーから取り外し、グリース（機種ごとに指定された耐熱グリース）を十分に塗る。

② 歯車室に指定されたグリースを十分注入する。

３　毎月の点検項目

（１）マフラーの汚れと損傷の有無

① マフラーを点検し、詰まっている場合は、マフラーを取り外し、竹べらなどで掃除する。シリンダの排気口のカーボンも同時に掃除する。

② 分解したときは、ガスケットを新しいものに交換する。

③ 損傷しているものは、交換する。

（２）シリンダ冷却フィンの汚れと損傷の有無

毎日の点検では取り除けないシリンダフィン周辺の樹脂や切り屑などを掃除する。取りにくい場合は、洗油で洗うか、コンプレッサを使用して取り除く。

（３）スパークプラグの機能点検

① スパークプラグを取り外し、ワイヤーブラシ等を使って掃除する。

② 電極のすきまは、０．６～０．７ mm に調整する。（エンジンの始動が正常なときは、調整の必要はない。）

（４）クラッチの汚れとシューの摩耗

① クラッチ部の油汚れやゴミをきれいに掃除する。

② クラッチシューが著しく摩耗している（作業中にクラッチが滑る）場合は、シューを交換する。

③ スプリングが折れたり、緩んでいる場合は交換する。

（５）リコイルスタータの汚れと損傷の有無

① ロープの戻りが悪いときは、分解して、きれいに掃除し、回転部とスプリングに少量のグリースを塗る。

② ロープが傷んでいたり、リコイルの爪が減っている場合は交換する。

リコイルスタータ

（６）防振ゴムの劣化と損傷の有無

亀裂や疲労したもの、あるいは接着面のはがれたものは交換する。

なお、交換するときは、関連する部分を全部交換する。

（７）フレキシブルシャフトの摩耗等の有無
　　フレキシブルシャフトを引き出して、摩耗状況を調べる。また、指定されたグリスを塗る。

４　長期格納時の整備

（１）各部の点検、掃除を行い、必要な場合は修理を行う。
（２）燃料タンクから燃料を抜き取り、その状態で運転し、キャブレター内の燃料を空にする。
　　フロート式キャブレターの場合は､フロート室のドレンを外して燃料を排出する。
（３）スパークプラグの穴からシリンダ内に少量のエンジンオイルを入れ、スターターを２～３回、回転させる。
（４）金属部分に薄くグリースを塗る。
（５）刈刃を取り外し、グリースを塗ってビニールなどで包んでおく。